

1、 UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。

[1、考えていた 2、すこし考えていた 3、あまり考えていない 4、考えていない]

- (1) 子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする
- (2) 体が不自由な人が使いやすいようにする
- (3) 危険がないようにする
- (4) 製品を見て使い方がすぐわかるようにする
- (5) 自分にも使いやすいようにする
- (6) これが製品になったら売れるか
- (7) たくさんの人に使ってもらいたい
- (8) 自分で考えたものが役立ってほしい
- (9) 見た目をおもしろいデザインにする
- (10) 見た目がきれいなデザインにする
- (11) 環境を汚さないようにすること

2、あなたがUDの商品を使うとしたら、どのように思ったからですか。

[1、そう思う 2、すこしそう思う 3、どちらでもない 4、あまりそう思わない 5、そう思わない]

- (1) 子どもからお年寄りまで、どんな人にも使いやすいから
- (2) 楽しそうだから
- (3) かんたんな力でできるから
- (4) 使いやすいから
- (5) とても便利だから
- (6) あまりつかったことがないから
- (7) ふつうの商品とどう違うのかためしてみたいから
- (8) 安心して使えるから
- (9) わたしも作ってみたいから
- (10) 体の不自由な方はどんな感覚を感じているのか知りたいから

3、UDの活動について、よかったことやなおしてほしいことがあれば書いてください。

アンケートはここまでです。

2.1.3 結果と考察

各項目の「1、考えていた」への回答数が上位のものから順に単純集計結果を示す。

これは、「ユニバーサルデザイン(UD)の活動」についてのアンケートです。「UDの活動」を通して考えたことや感じたことを思い出して答えてください。自分が考えたことに一番近いところの番号を()に書いてください。 [<例> 2、すこしそう思う 答え(2)]

1、 UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。

[1、考えていた 2、すこし考えていた 3、あまり考えていない 4、考えていない]

上位には、「(7)たくさんの人に使ってもらいたい」「(1)子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすい

いようにする」「(5)自分にも使いやすいようにする」という、UD 本来の「使いやすさの追求」という項目がなかった。これは昨年同様の結果である。この「使いやすいようにしたい」を中心概念にして子どもたちが活動していたことがわかる。

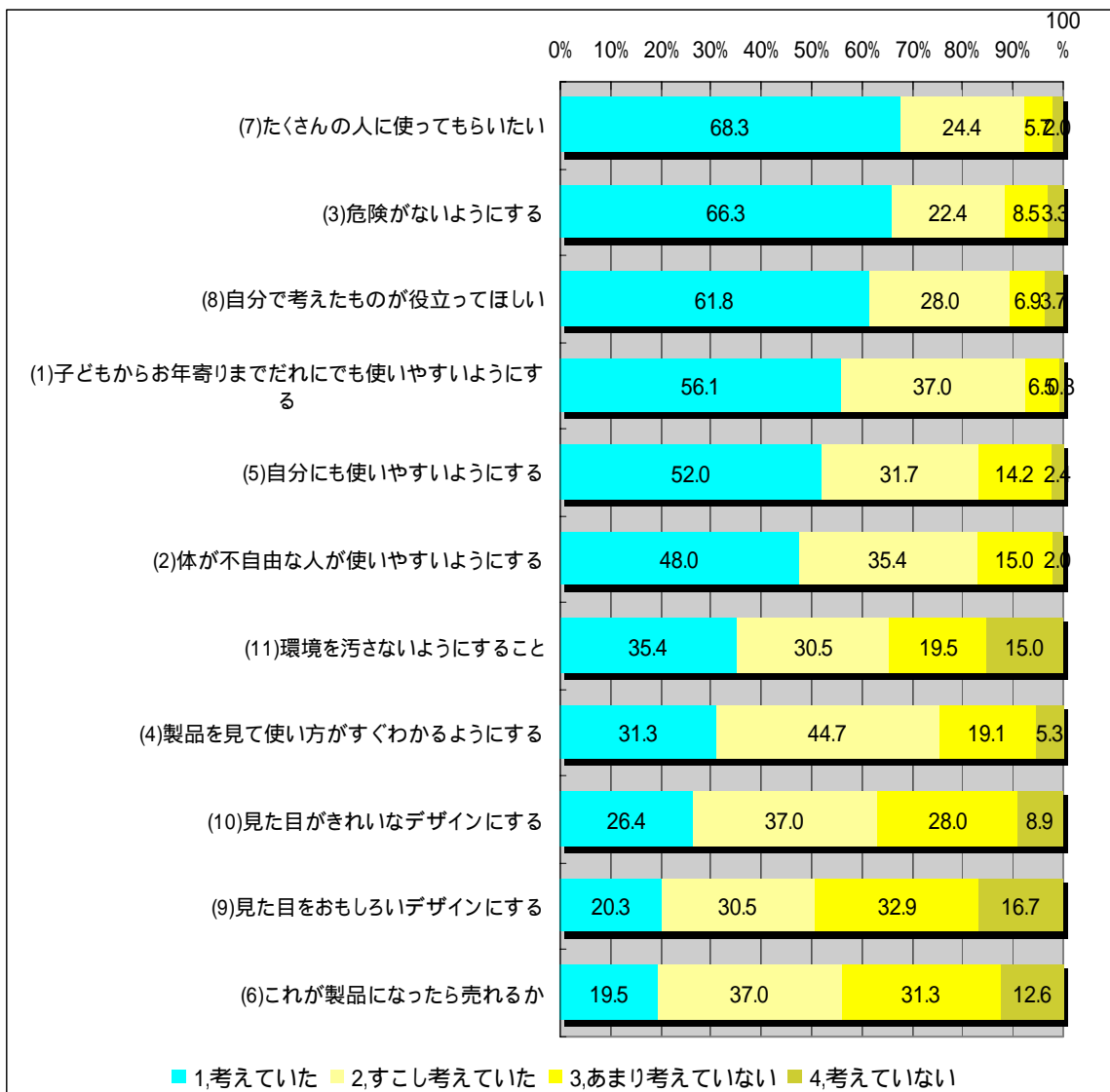
第2位に、「(3)危険がないようにする」という項目があがっている。この項目は、昨年度は下位にあった。このことは、活動を進める上で子どもたちが気付いていったのか、教師側で強調したのか不明であるが、「設計の基礎」ということで重要な点を意識していたことがわかる。

しかし、昨年に引き続き、「(11)環境を汚さないようにすること」「(4)製品を見て使い方がすぐわかるようにする」という大切な点は、あまり満足がいく結果となっていないと思われる。今後の活動を進める上で、配慮すべき事項であると思われる。

さらに、子どもたちは「(10)見た目がきれいなデザインにする」「(9)見た目をおもしろいデザインにする」といった、新奇性に誘われた意識をあまり持っていなかったことがわかる。UD の活動を真摯に受け止めて活動していたと思われる。

(上段度数、下段%)

	1、考えていた	2、すこし考えていた	3、あまり考えていない	4、考えていない	合計
(7)たくさんの人に使ってもらいたい	168	60	14	5	247
	68.3	24.4	5.7	2.0	
(3)危険がないようにする	163	55	21	8	247
	66.3	22.4	8.5	3.3	
(8)自分で考えたものが役立ってほしい	152	69	17	9	247
	61.8	28.0	6.9	3.7	
(1)子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする	138	91	16	2	247
	56.1	37.0	6.5	0.8	
(5)自分にも使いやすいようにする	128	78	35	6	247
	52.0	31.7	14.2	2.4	
(2)体が不自由な人が使いやすいようにする	118	87	37	5	247
	48.0	35.4	15.0	2.0	
(11)環境を汚さないようにすること	87	75	48	37	247
	35.4	30.5	19.5	15.0	
(4)製品を見て使い方がすぐわかるようにする	77	110	47	13	247
	31.3	44.7	19.1	5.3	
(10)見た目がきれいなデザインにする	65	91	69	22	247
	26.4	37.0	28.0	8.9	
(9)見た目をおもしろいデザインにする	50	75	81	41	247
	20.3	30.5	32.9	16.7	
(6)これが製品になったら売れるか	48	91	77	31	247
	19.5	37.0	31.3	12.6	

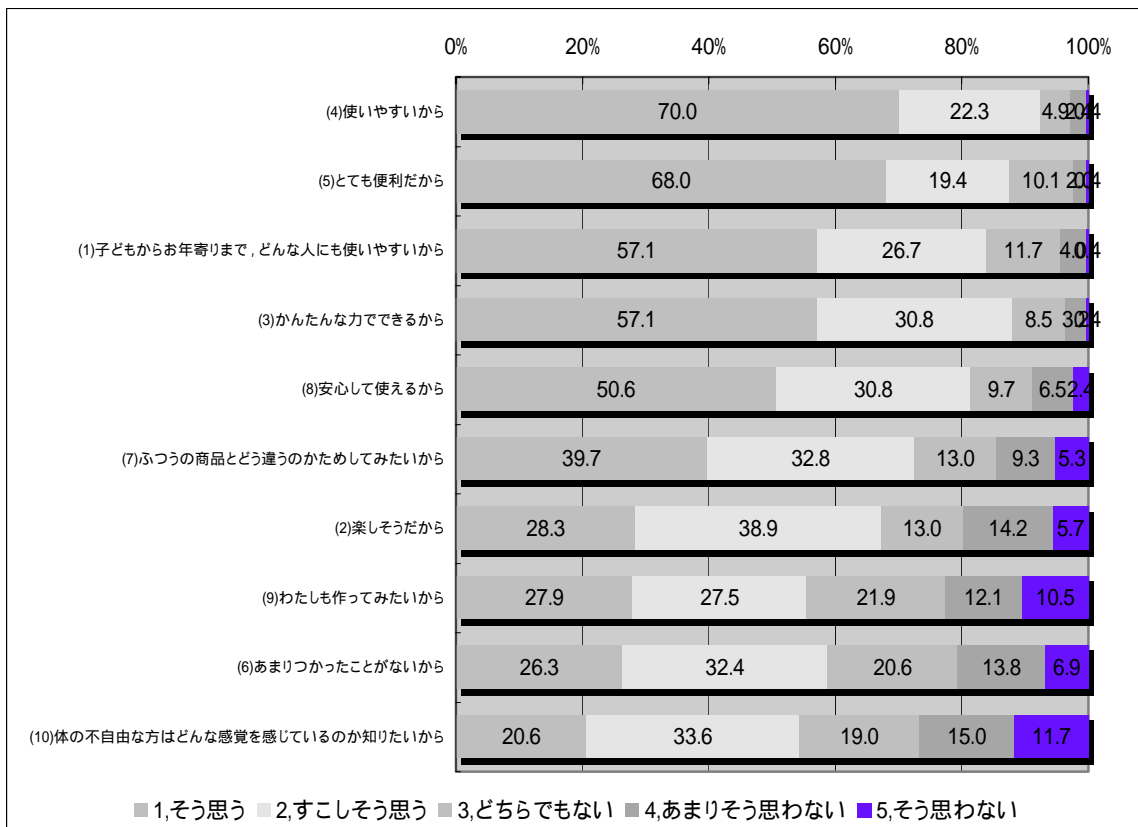


2、あなたがUDの商品を使うとしたら、どのように思ったからですか。

UD の製品を選ぶ時の基準についての調査である。おおむね、「使いやすいから」ということを選択理由としている。「(1)子どもからお年寄りまで、どんな人にも使いやすいから」「(3)かんたんな力でできるから」という UD 本来の機能に注目していることもわかる。逆に、新奇性を理由とする「(6)あまりつかったことがないから」「(2)楽しそうだから」という意見は少なかった。UD 製品のデザインとして優れている点を見抜こうとしていることが推測される。

	1、そう思う	2、すこしそう思う	3、どちらでもない	4、あまりそう思わない	5、そう思わない
(4)使いやすいから	173	55	12	6	1
	70.0	22.3	4.9	2.4	0.4

(5)とても便利だから	168	48	25	5	1
	68.0	19.4	10.1	2.0	0.4
(1)子どもからお年寄りまで、どんな人にも使いやすいから	141	66	29	10	1
	57.1	26.7	11.7	4.0	0.4
(3)かんたんな力のできるから	141	76	21	8	1
	57.1	30.8	8.5	3.2	0.4
(8)安心して使えるから	125	76	24	16	6
	50.6	30.8	9.7	6.5	2.4
(7)ふつうの商品とどう違うのかためしてみたいから	98	81	32	23	13
	39.7	32.8	13.0	9.3	5.3
(2)楽しそうだから	70	96	32	35	14
	28.3	38.9	13.0	14.2	5.7
(9)わたしも作ってみたいから	69	68	54	30	26
	27.9	27.5	21.9	12.1	10.5
(6)あまりつかったことがないから	65	80	51	34	17
	26.3	32.4	20.6	13.8	6.9
(10)体の不自由な方はどんな感覚を感じているのか知りたいから	51	83	47	37	29
	20.6	33.6	19.0	15.0	11.7



2.2 教師の意識調査

2.2.1 調査目的

ユニバーサルデザイン(以下 UD)プロジェクトに取り組んだ教師が、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする。

2.2.2 方法

(1) 調査対象者

UDプロジェクトの授業を行った教師 8名

(2) 調査期日

2005年2月15日～28日

(3) 調査項目

これは、「UDの活動」についてのアンケートです。「UDの活動」を通して考えたこと感じたことを思い出して教えてください。選択肢の解答は、その番号の前に をつけてください。

<例: 1、そう思う>

(1) 授業へはどのような形で提案しましたか。(複数解答可)

- 1、総合的な学習の時間から
- 2、国語科から
- 3、福祉的面から
- 4、図工から
- 5、美術から
- 6、その他()

(2) 授業の導入をどのように行ったか書いてください。

(3) 子ども達は興味をもって活動していましたか。

- 1、そう思う
- 2、すこしそう思う
- 3、どちらでもない
- 4、あまりそう思わない
- 5、そう思わない

(4) UDの授業の教育的意義を書いてください。

(5) UDの授業後の子どもたちの反応を書いてください。

アンケートはここで終わりです。記入もれがないように確かめてください。

2.2.3 結果と考察

教師の回答の主なものを列記する。

(1) 授業へはどのような形で提案しましたか。(複数解答可)

ほとんどの場合、総合的な学習から入っている。ただ、国語科からのアプローチも見逃せない点である。

1、総合的な学習の時間から
1、総合的な学習の時間から
1、総合的な学習の時間から 社会見学(生命の星・地球博物館)から
1、総合的な学習の時間から 2、国語科から 6、その他(社会科から)
1、総合的な学習の時間から 2、国語科から 3、福祉的面から
6、その他(社会科)
1、総合的な学習の時間から
2、国語科から 3、福祉的面から

(2) 授業の導入をどのように行ったか書いてください。

さまざまな導入が工夫されている。これは、「なぜUDに取り組むか」という必然性に結びつけ苦労が感じられる。ただ、まずUDの概念の理解を図るという点では共通していると思われる。

まず、「ユニバーサルデザインを知っていますね？」に始まって、詳しく知るためにコクヨのホームページをプロジェクトで投影してみんなで閲覧した。そして、ユニバーサルデザイン商品を見たり使ったりした体験を聞いた。そして、「プニョプニョマグネット」や「ラッチキス」を普通の磁石やホッチキスと使い比べて、そのよさを共通体験した。
生命の星・地球博物館で、子供たちが活動している写真の中で、UDやバリアフリーに触れている写真を見せた。「今はよくわからないと思うけれど、いっしょに勉強していこう」ということにした。
5年生の時は、社会科「工業単元」の中で取り上げた。 6年では、来年度から採択される光村図書出版の「6年下」の中の『みんなが生きる町』を入り口にして、UDへとつなげていった。
全介助のNさんが持っている、はさみがみんなと違うところから、どこが、どうちがうのかつかって見た感想から導入。
昨年度から引き続き取り組んでいるので、子どもたちの方からいくつかアイデアが事前に出されていた。社会科の誰にでも住みやすい社会作りから広げて総合で扱った。アイデアを出す前にコクヨから送られたCDを見てUDの原則を確認し、アイデアを練り上げる活動につなげた。
総合のテーマ「かけがえのない命」から、いのち、人に優しい社会を作るために自分ができることはないかを考えさせました。

交通バリアフリー教室でバリアフリー体験をし、感想をまとめた後、教師のパワーポイント教材で、バリアフリーからユニバーサルデザインに考えがシフトしていることを知らせ、ユニバーサルデザインの調べ活動に入った。

(3) 子どもたちは興味をもって活動していましたか。

子どもたちの興味関心の高さを教師たちが感じていたことがわかる。

1、 そう思う
1、 そう思う
1、 そう思う
1、 そう思う
1、 そう思う
1、 そう思う
1、 そう思う
2、 すこしそう思う

(4) ユニバーサルデザインの授業の教育的意義を書いてください。

さまざまなかたちの教育的意義を教師は感じている。

- ・視点の変化
- ・プレゼンテーション能力の育成
- ・何かを生み出すことの苦労を味わう。
- ・人の評価を受ける機会を得たこと

などをあげている。

・今まで自分中心の視点で見ていたことやものが、いろいろな人の立場で見つめることができるようになる。これは、思いやりの気持ちにつながる。

・ユニバーサルデザインの作品作りに取り組むことで、子どもの柔軟な発想を生かし伸ばしたり、創造する楽しさを味わったりすることができる。

・自分の作品を友達の前で決められた時間内で発表する活動などを通して、子どものプレゼンテーションスキルを高めることができる。

・作品発表会でお互いの発表を聞き合うことで、友達の発想やプレゼンテーションのよさに気づき、そのよさを自分に取り入れていこうとする契機となる。

今まで何気なく使っていた商品や施設が、全くちがうものに見える。そして、それを作った人が持っている「使う人への配慮」に気付いてくるようになる。こうした「視点の変化」が教育的な意義だと感じている。

いろいろな人がいて、相手の立場になって考えることの大切さを知ることができる。
ちょっとした工夫で、いろいろなことがもっと便利になるかもしれないという小学生なりの社会生活への参加(参画?)が可能なのがわかる。
「デザイン教育」と言えばよいのかわかりませんが、何かものを生み出す苦勞と楽しさを実感できる。
いろいろな世代の人と話せる。(インタビューがきっかけとなった。)

福祉的な視野、相手の立場を考える態度、伝えてまとめて伝える、伝える力

まず他の人の立場に立って物を考えようとする態度が養われる。また、今回はアイデアがたくさん出されたのでそれぞれ発表してどれにするか選ぶときに保護者の方も巻き込んで投票する活動を子どもたちが提案したり、プレゼンを作るときも 協力し合う姿が至るところで見られた。みんなで一つの物を作り上げるという具体的な形がすでに提案されているので目的意識を付けやすいと思う。プレゼン力の向上も大きな進歩だと思う。自分ができる分野で分担して短期間でプレゼンを作っていた。高校生のCDもとても役だった。

自分の考えが実際に形になることが少ないので、こういう機会が会ったと言うこと自体意義があると思う。また、人の評価を受けたり、アイデアを出し合ったりしていくことも意義がある。他の教科で一つ作品を作っていこうなんてほとんどできない。アイデアを出すとき、親の意見や自分の生活体験が生かされた。親を巻き込んだ学習展開にできることもUDの魅力だと思う。

ユニバーサルデザインの考えや UD 商品を調べ、そのよさやこれからの世の中に必要かどうかなどを話し合うことで、「全ての人にやさしい町づくり・くにづくり」という地域や世の中を見る視点を持つことが出来る。コミュニティーを考える市民の育成？

(5)ユニバーサルデザインの授業後の子どもたちの反応を書いてください。

UD に取り組んだことでの子どもたちの変化を教師は様々な形で感じている。とくに、UD という言葉に敏感になったという報告がたくさんあげられている。

- ・軍手をはめて「プニョプニョマグネット」と普通の磁石を使い比べると、その違いにびっくりした。力の弱い人にとっては、磁石を外すことだけでも大変なんだな。使い比べてよく分かった。そのような物が、他にもたくさんあるんだろうな。
- ・みんなが安心して使える物を自分で考えることができたことがうれしかった。
- ・友達の発表を聞いて、いろいろな作品があったので参考になったし、聞いていて楽しかった。
- ・みんなに自分の作品のよさを分かりやすく伝えるための工夫をできてよかった。など

印象的だったものを一つ、「バリアフリーっていうのがまだ人事だったような気がするけど、今回身近に感じるようになってよかった。」確かこのような表現だったような気がします。すみません。3月20日にはみんなの事後の感想をまとめ持って行ったのですが、今はその資料が探さないとでてこないようなので…。

保護者の方から、「街を歩いていて、『あれは UD だよ。』と教えられてびっくりした。」というお話があった。目に見えるものにはなっていないけれど、確実に子供たちの心には残っていると思う。

反応というよりも変化という方が正しいですが、UD という言葉に敏感になった。
UD と書かれた新聞記事を持ってくるようになった。
文房具にこだわるようになった。
ちょっと高いけれど、使いやすいシャーペンが流行した。
5年生が UD のことを調べてまとめた掲示物を見て、「まだまだ甘い」と先輩風を吹かせていた。
「これ使いにくい」とものに対して文句を言うようになった。
デザインしたそのものだけでなく、ものを考えることが楽しくなったように感じる。(製作過程を楽しんでいた。)
友達のよいところを素直に認められるようになった。
1つのものを多面的に見ることができるようになった。 友達の作品を批評するとき、こういうときはどうするのかなど、数多くの心配事を指摘できるようになった。
わたしは UD 授業で変わったと卒業作文に書いている子どもがいた。

UD を意識するようになった。公共施設、自販機などの UD デザインに目がとまるようになった消しゴムがかどけしになった。Nさんにも使いやすい文房具を考えるようになった。作文では、もっと勉強してUDを広めたいというものもあり、3月4日、ラジオで放送されます。

自分たちの周りの環境をよりよい物にしようという感覚が育ったように感じる。道具だけでなく、学校のきまりやクラスでの活動などにも他を思いやり自分の行動を見直す姿が見られるようになってきた。掃除前にざっとゴミを掃いている班長、こうするとそうじをしやすいよとか、床に落ちているゴミをぱっと拾う姿、困っている子に声をかける子などUDと直接関係はないけれど他の人がどう感じるかということを考えて行動できる子が増えたように思う。

かなりUDについて専門家のように話をだす子が増えてきた。これは、UDだとか、自然に使いやすさとか、誰にでも使えるか、とかが話し合いの場で楽しくできるようになった。いいテーマだと思う。

パネルディスカッションで「UD は必要かどうか」というところから話し合えたので、たんなる流行としてでなく、必要なものとしてとらえることが出来た。また、2度目のパネルディスカッションは「一番UD にしたいものは」というテーマであったが、どんなことを大切に世の中を考えていくかを考えるきっかけになったと思う。こどもたちは、また、UD について話し合いたいと言っていた。

3.総合考察

以上、児童向けアンケートと教師向けアンケートの集計考察を進めてきた。

児童は「使いやすいように作る」という意識が強いことがわかる。昨年度の調査では、この作りやすさの追求にとらわれすぎて、安全面や環境への配慮にややかける傾向があった。しかし、今年度のデータをみると、安全面に対する配慮の項目がよくなってきている。このことは大きな成果と考えられる。ただ、環境への意識はまだまだというところである。UDには、「7つの原則」というものが存在する。これにそったもの作り・社会作りを学ぶという目的がある。教師も児童もこの「7つの原則」にたえず立ち返り、確認しながら活動を進めていくことが重要なのではないかと考えている。

さらに、児童は、UDの製品を「形の奇抜さやおもしろさ」よりも「つかいやすさ」を観点に選んでいることがわかった。こうした視点の変化も「生活者としての自立」という観点から成果として見逃せない点である。

教師は、このUDの活動を単なるもの作りの活動ではなく、その裏に「人を思いやる心」の大切さを感じてほしいと感じていた。さらに、作り手の使う人への配慮を感じてほしいと考えていた。このことが明確な形で成果となって表れなければならないと感じている。このことを、このUDの調査において明らかにしていかなければならない。これが来年度の課題と考えている。

4.まとめ

この活動の最後に、製品の発表審査会が行われた。そのおりに、児童がお互いに製品についての質問をしあうという場面があった。参観者からは、「昨年には見られなかった場面である。」との感想があった。

今後、このUDプロジェクトは様々な発展的な活動の可能性を内包していることがうかがえた。そのすべてを整理していくことはたいへん難しいことと考えている。

この調査結果報告書が、UDプロジェクトの活動の新たな展開を切り開くものになれば幸いと考えている